

リニア中央新幹線建設と浜岡原発運転の中止を求める

集 会 宣 言

—福島原発の事故に際して緊急に宣言する—

3月11日に発生した東北太平洋沖を震源地とする大地震は津波をはじめとする未曾有の惨禍を招いているが、わけても福島第一原発における原発震災は遠い将来にわたって多くの苦痛を人々に与え続けるにちがいない。

これまで安全を謳ってきた東京電力及び日本政府の説明は、まさにそれが神話であったことを日本全土に証明し、原発がかくも天災に脆いものであることを身をもって示したと言える。

JR東海が計画しているリニア中央新幹線は東海道新幹線の3倍といわれるエネルギーを必要とする。それは原発数基分に匹敵するエネルギー量であり、当然のことながらリニアによって原発の増設が必要となるであろう。そしてそれらは、ごく常識的に考えれば柏崎や浜岡から送られるはずである。

すでに柏崎は大地震に襲われ、浜岡も東海大地震を目前に控えている。福島原発の惨状を見るにつけ、このような危険なエネルギー需要をベースとするリニア中央新幹線計画は中止すべきだと考える。

国土交通省の中央新幹線小委員会においては、これまで供給されるエネルギー源に関して議論された形跡が全くない。委員会は今般の原発事故を教訓として、真剣にエネルギー議論を行い、原発の安全性が担保されるまで答申を俟つべきである。

またこの小委員会がリニア計画の決定に際し、どのような責任があるかも明らかにすべきである。

くわえて小委員会は、JR東海が主張する東海地震時のバイパスとしてのリニアの必要性を根本から問い直すべきである。東海地震は浜岡原発がフィリピンプレートとユーラシアプレートとのトラフの直近の位置にあり、浜岡原発にとっては直下型地震として起るはずである。とすればその惨禍は、とうてい福島原発の比ではなく、東京から大阪にわたるようなはるかに大規模の惨状を呈すであろう。バイパスなどという位置づけは軽薄にすぎ、もはや何の意味も持たないはずである。

浜岡に限るわけではない。これを期に日本全体の電力供給体制について、国民に多大な健康リスクを負わせ、経済的な破たんをも招くにちがいない原子力から早急に脱却すべきときが来たと考ええる。

以上の点からして、私たちはJR東海に対してまずリニア計画の中止を要求するのみならず、浜岡原発の運転中止をも国及び中部電力に要求する。

さらにくわえて、政府は山梨リニア実験線をはじめとするリニア関係の予算を2011年度より凍結し、これを東北関東大震災の復興資金にあてるよう要求する。

以上、集会の宣言とする。

2011年3月27日

シンポジウム「リニア中央新幹線は必要か？」名古屋集会 参加者一同